

# 学校法人武蔵野大学 第一次長期計画

—MU VISION 2030—

[2020年度～2030年度]

第一期中期計画 [2020～2024]

<2023年3月改訂版>

# 目次

1. 学校法人武蔵野大学 第一次長期計画  
(2020～2030 年度) —MU VISION 2030— ..... 1
  
2. 第一期中期計画 [2020～2024 年度] ..... 10

# 1. 学校法人武蔵野大学 第一次長期計画（2020～2030 年度）

## —MU VISION 2030— 〈第3回更新 2023年3月〉

グローバル化が進み、社会・経済・科学技術が国境を越えた変容を見せるとともに、ボーダレスに情報をやり取りするための情報通信技術は、新型ウイルスの世界的流行による緊急性も背景に劇的な進歩を続けている。AI、ビッグデータ、IoTの登場は第4次産業革命とも言われ、利便性の向上や産業の発展に大きな影響を与える一方、社会における格差の拡大や環境破壊といった社会の持続性への危惧が叫ばれている。こうした状況に対し、2015年に国連が採択した持続可能な開発のための目標（SDGs）をはじめ、様々な立場からあるべき社会の実現に向けての議論と努力が続けられている。

我が国の教育においては、少子高齢化、地方創生の必要性や科学技術の発達などを背景に、2050年に必要となるであろう能力を予見し、今後の社会を担う人材の養成に取り組むことが喫緊の課題となっている。

上記のような状況に鑑み、本学においても、世界的規模で激しく変化する社会情勢に対応し、予測不可能な時代の到来に向けどのような教育研究と人材養成を目指すべきかを深く検討し、計画的推進を実現するため、学校法人武蔵野大学第一次長期計画をここに策定する。

### ■建学の精神

仏教の根本精神である四弘誓願を基礎とする人格教育。

四弘誓願（しぐぜいがん／ほとけのねがい）

生きとし生けるものが 幸せになるために  
むさぼり・いかり・おろかさに 流されず  
この世界 あるがままの真実に 学び  
人格向上の道を ともどもに 歩みたい

学校法人武蔵野大学の建学の精神は、仏教の根本精神である四弘誓願（しぐぜいがん／ほとけのねがい）を基礎とする人格教育である。学祖高楠順次郎博士は「理想が高まるに従って人格が高まり、人格が高まるに従って高い理想が現出する」と述べ、仏教の開祖である釈尊を理想の人格として仰ぎ、私たちもその理想に向かって、人格向上の歩みを進めることこそ人生の意義であると説いている。このように、学校法人武蔵野大学の教育の目標は四弘誓願を基礎として人格向上を図ることである。

今後とも仏法の真理観に基づく建学の精神を具現化する取り組みを本学の教育研究活動の根幹に据えつつ、仏教思想のもつ現代的な意義と可能性を世界に向けて発信していくこ

とが重要である。2024年に創立100周年を迎えるにあたり、改めて学祖高楠順次郎博士の仏教研究や教育事業の初心に学びつつ、武蔵野大学仏教文化研究所が世界的な仏教研究のセンターとなるようそのあり方及び研究活動の抜本的充実をはかることとする。

## 1. 武蔵野大学・大学院

### (1) MU VISION 2030 (第一次長期計画)

武蔵野大学では、2024年の100周年を前に、絶えざる改革と成長、発展を目指し、2050年を眺望した新たな中長期改革の方針となる「武蔵野大学2050 VISION」を発表、2030年においてもこのビジョンを指針とする。

### (2) ブランドステートメント (宣言)

「世界の幸せをカタチにする。」

生きとし生けるものが 幸せになるために

むさぼり・いかり・おろかさに 流されず

この世界 あるがままの真実に 学び

人格向上の道を ともどもに 歩みたい

仏教の根本精神である「四弘誓願」の理念、すなわち、自己と他者は密接につながりあっているという前提のもとに、自らの幸せだけでなく他者の幸せをも真摯に希求するところに、目指すべき理想の世界がうち立てられていくという理念を具現化するため、ブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を宣言する。

武蔵野大学は、2024年の創立100周年を跳躍台として、2050年の未来に向けて、本学に課せられた使命を果たしていく決意であり、ブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」はその決意の表明である。

### (3) ブランドビジョン (目指す姿)

#### ☆ハピネス・クリエイター (Happiness Creator) が集う大学へ

私たちは、世界に生きている。今いる場所も、遠く離れた地域や国も、地球や宇宙も世界である。そこで起きていることは、たとえどんな些細なことであっても相互に影響し合い、過去と未来に繋がっている。そうしたあらゆる境を越える広い視野をもって、世界の喜びと痛みを感じ、あらためて世界の幸せとは何かを問い、その解を導き出していくことが必要とされる世界に私たちは生きている。

ブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」に謳う「幸せ」とは、生きとし生けるものの痛みや苦しみからの解放を通じて実現されるものである。人間だけでなく、この地球に宿るすべての存在、目に見えるものも見えないものも含めたすべて

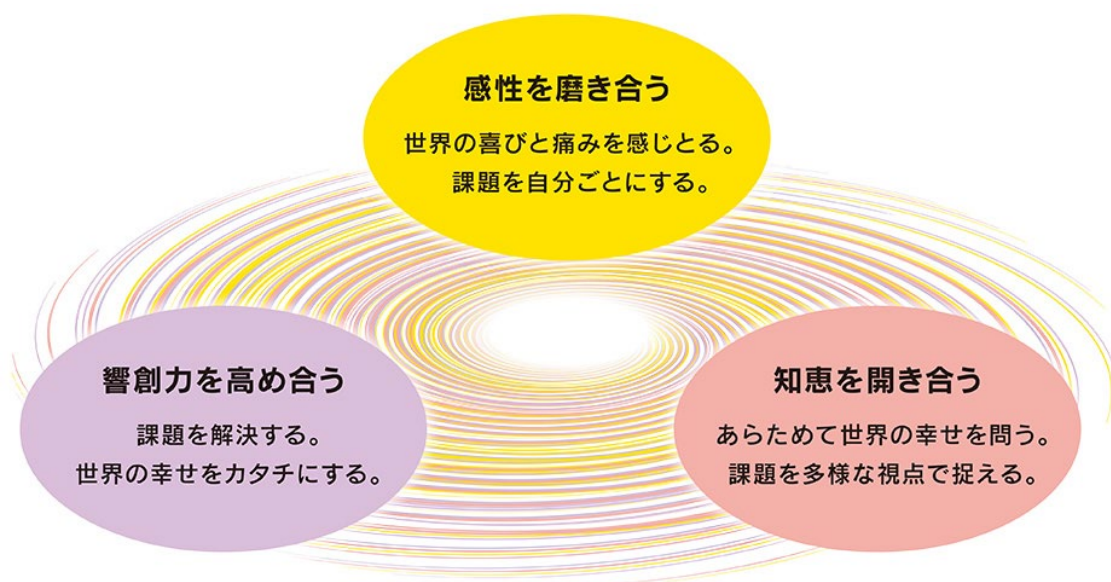
のものの痛みや苦しみを感受し、問いかけ、その解放を願い実践するところに「世界の幸せ」が創られていく。

武蔵野大学は、世界の幸せを願う心を第一義に据えつつ、世界を見渡す幅広い教養、視野、経験、感性をベースに、それぞれの学部、学科、大学院研究科、研究所の専門的知見を活かして、世界の痛みや苦しみを世界の幸せへと響創していくことを目指す。

「世界の幸せをカタチにする。」を自らの願いとする、感性・知恵・響創力にすぐれた人格を育成し、ハピネス・クリエイター (Happiness Creator) として社会に送り出していくことが本学の教育的使命である。

### ☆3つの行動指針「響き合い、高め合うスパイラル」

武蔵野大学は、2050年の未来を眺望しつつ、「世界の幸せをカタチにする。」という理想を掲げ、教育研究を改革し、世界から求められる大学になる。この崇高な目標に向かって接近していくための行動の指針として、3つの行動指針「響き合い、高め合うスパイラル」(①感性を磨き合う、②知恵を開き合う、③響創力を高め合う)を掲げる。この行動指針は、学生、教職員、同窓生をはじめとして、本学に関わりのあるすべての人々が、あらゆる場面でのどのように意思決定し、行動すべきかを示す指針である。一つひとつを向上し、それが繋がるスパイラルを拡大させることが、「世界の幸せをカタチにする。」の実現に私たちを導いていく。



#### ① 感性を磨き合う co-feel

感性を研ぎ澄ませ、世界で起きていることを能動的に感じとる。想像力を最大限に発揮し、自他の境を超えていく。このように、課題を自分ごとにする「感性」が世界から求められている。私たちは、「感性」を磨き合う教育研究を実践する。

## ② 知恵を開き合う co-awaken

世界の幸せとは何か、課題の理解と解決とは何をなすべきかを問う。不断の探究心をもって、固定観念を超えていく。このように、課題を多様な視点で捉える「知恵」が世界から求められている。私たちは、「知恵」を開き合う教育研究を実践する。

## ③ 響創力を高め合う co-create

人々と連帯して課題を解決する。誠実さと行動力をもって、価値観や言語の境を超えていく。このように、異なる力を響き合わせて課題を解決する「響創力」を高め合う教育研究を実践する。

(響創力: 価値観や言語の異なる人々と響き合い、連帯して創造する力を表している。「響」は、仏教の縁起観をもとにしたことばである。)

世界の幸せをカタチにする。

私たちは感じ、問い、創りつづけます。一人ひとりの幸せを、世界の幸せを。

そのために、感性を磨き、知恵を開き、響創力を高め合います。

## (4) ブランドステートメントとSDGs

2015年9月、国連総会は、人類が直面している喫緊の課題に取り組み、豊かな地球環境を未来に向けて残していくため、2030年に向けて「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)として17の目標を定め、世界の国々が総力を挙げて取り組んでいくことを全会一致で決議した。このSDGsの基本精神である「誰ひとり取り残さない」

(No one will be left behind)は、本学の掲げるブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」に流れる精神と軌を一にしている。本学においても、2016年4月、ブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を宣言し、新たに設置した「武蔵野大学しあわせ研究所」を中心としてSDGsの運動に取り組んできた。2019年3月には、「武蔵野大学SDGs実行宣言」を発表し、大学全体の取り組みを加速させるとともに、学部、学科、大学院研究科、研究所それぞれの単位において自身のターゲットを明確にしてSDGsの運動を推進することを宣言した。2021年度から新たに始まる全学共通基礎課程「武蔵野INITIAL」においても、全学共通の必修科目として「SDGs基礎」「SDGs発展」などの科目も配置し、SDGsの取り組みに連動した教育や研究を推進する。2030年に至るこの10年間において、本学のブランドステートメントの具現化の取り組みをSDGsの目標達成の運動と融合させて取り組むことによって、「世界の幸せ」を大きくカタチにしていく。

## (5) 武蔵野大学2050 VISION 5つのチャレンジ

本学の建学の精神に基づくブランドステートメントを実現していくため、武蔵野大学2050 VISIONとして5つのチャレンジを掲げる。この5つのチャレンジは、第一次長期計画の第一期中期計画から具体的な施策とアクションプランに落とし込み実践する。

①チャレンジ1 自己と世界を問う

自ら考え、課題を設定し、国内外の他者を巻き込み主体的に取り組むマインドの醸成

②チャレンジ2 未来の世界を創る Creative な実践者の輩出

教育の質向上と研究力強化による未来の世界を創る実践者、研究者の育成

③チャレンジ3 AI世界を先導するMUSIC (Smart Intelligence)

最先端の科学・技術・システムを駆使するスキルを修得するプログラムの提供と支援

④チャレンジ4 Global & Universal

世界の全ての他者と響創するための人格の育成

⑤チャレンジ5 MU-GEN (Musashino University GENERations) につながる Infinite Linking

在学生、教職員、卒業生、関係する他者との繋がり深化

※MUSIC (Musashino University Smart Intelligence Center)

本学における情報・メディア教育推進組織のこと。全ての学生がAIの基礎知識を学び、いつでもどこでも自分にあった学びを可能とし、”AI-Ready-University”を実現するというビジョンのもと、先進的な情報教育を推進していくために2019年1月に設立。

## 2. 武蔵野大学中学校・高等学校

「社会に貢献する人材の育成」という原点に立ち返りつつ、大学附属校としての役割と、国内外の難関大学に挑戦する役割の2つの側面を両立させていく。また、理系教育にもより一層の強化を行い、創設者の想いを今後も継承していきながら、地元からも愛される発信力を備えたリーディングスクールを目指していく。また学習指導要領の改定、GIGAスクール構想、共学進学校に対応した教育カリキュラムの開発や施設設備の改修を今後10年間で実施する。さらに教員組織や財政については、系列校との人材交流により、組織の活性化を図りつつ、生徒募集などのノウハウを共有し、相互の財政基盤の健全化・安定化を図る。

### **3. 千代田国際中学校・武蔵野大学附属千代田高等学院**

国内難関大学・海外大学への合格実績を上げていくために、教員の指導力向上と外部教育機関との連携を図る。教育活動では、「国際」と「探究」に重点を置き、これからの世界を見据えた「想像力」と「教養力」に富んだ生徒の育成に取り組んでいく。また、中学校の再開にあたり、社会と接続する学校教育モデルを構築し、未来の世界に貢献する教育機関として、建学の精神の具現化を改めておこなう。さらには、武蔵野中高や龍谷総合学園関係校との人事交流を図ることで、教育手法の研究や補助金・寄付金等の外部資金獲得、生徒募集等の知識と経験を共に活かし、法人全体としての最適化を目指していく。

### **4. 武蔵野大学附属幼稚園・慈光保育園**

円滑な運営と教育環境の整備を行い、競争力ある教育を実施することで園児を成長させると同時に、幼稚園型認定こども園への移行も視野に入れ、長期的視点に立って検討を進める。自然豊かな教育環境、仏教保育の充実、そして大学附属園の利点を十分に活かす教育など、これまでの本園の特徴を基盤としつつ、さらに現代的なニーズ、関心に照らして一層の充実をはかっていく。

### **5. 武蔵野大学附属有明こども園**

就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律、子育て支援法及びその他の関連法令に従って、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、就学前の子どもに対する教育及び保育を一体的に行う。そのために、園内外で研修を実施し円滑な運営に努め、教育環境の整備を行う。また、わくわくプログラムや地域子育て支援プログラムなど特色のある教育、保育を行う。



## 6. 法人財政 10 年計画

### (1) 人事計画

#### ①大学

教員の配置は、大学設置基準及び大学院設置基準に基づき、教育研究上の優れた業績を有する者を適正に配置する。教員の編成は、各学部・研究科の目的、カリキュラムに沿った適切な教員組織を編成する。また、特定の範囲の年齢、性別に著しく偏ることのないようバランスを確保し、国際化にも対応しうるような教員編成の多様性を推進する。更に、新学部の設置に伴う教員採用を行うとともに、教員数については財政上許容される人件費枠を設定し、その範囲内で最大限の教員増を図り S T 比率(教員一人当たりの学生数)を改善させて、大学の評価及び私立大学等経常費補助金の評価点の向上につなげる。なお、給与については、公務員準拠の体系構築を目指す。助教や学生指導の助手を採用し教育力の向上を図るほか、クロスアポイントメント制度の活用等により、S T 比率の維持・向上とともに、人件費の抑制に努める。

#### ②中学校・高等学校

武蔵野については、共学化に伴う生徒数の増大への対応とカリキュラム改編等に伴う総授業数の見直しに伴い、教員を充実させる。千代田については再生計画等の諸改革を推進し、カリキュラムを共通化しコース制を見直すことで教員数を抑制する。更に武蔵野と千代田の人員交流も進める。

#### ③幼稚園

本園の規模(園児数、クラス数)に基づく東京都経常費補助金の補助対象上限となる教職員数を基準として人員を確保する。

#### ④こども園

設置計画に基づき人員を確保する。

#### ⑤事務局職員

事務職員は、財政上許容される人件費枠を設定し、その範囲内で最大限の職員数を確保する。各部門の人員については全体の中で調整を図り配置する。令和4年度に策定したDX推進基本計画を推進するため、DX対応要員を増員する。また、令和6年度に設置構想中の新学部対応要員を増員する。

なお、事務組織の在り方や事務職員の人事制度の在り方についての検討を行い、制度改革を図る。

また、事務局運営の基盤となる諸事項について審議するための部長会議を設置し、併せて将来の役員等を輩出するための人材育成に取り組む。

#### ⑥人件費管理の在り方の改革

現在は人員数によって管理を行っているが、人件費管理の仕組みを見直し、より効果的・効率的な制度となるように早急に検討を行う。

## (2) 施設整備計画

### ①設備・機器更新等の基本方針

- ・受変電設備は、稼働の停止が空調、照明からネットワークインフラ及び教育研究機器まで全ての教育研究活動の停止を招くため、法定耐用年数の経過に合わせ更新する。
- ・空調設備は、故障修理履歴、運転累計時間数及び修理部品の調達状況を視ながら更新時期を決定し、換気設備を併設していない場合は、更新時に換気設備を増設する。
- ・教育研究用機器及びソフトウェアは、高度化のスピードが速く、教育研究環境の維持のため、原則耐用年数到来に合わせ更新する。

### ②ITインフラ整備計画

全キャンパスにおいて、Society5.0時代に即応しMUSICの構想を支えるハード・ソフト両面のインフラとして、BYOD(Bring Your Own Device: 学生が自分のPC等のデジタルデバイスを携帯することで、いつでもどこでも今いる場所を教室とすることを可能にする)に対応したネットワークを早急に高度化し、併せて毎年度発生するサーバーやPC等教育研究用機器の更新を、過去に積み立てた減価償却引当資産を活用し計画的に行う。

### ③修繕計画

給排水・消防・防犯設備等は、定期保守点検結果に基づき、支障のある箇所を速やかに修繕し、経常運転の維持に努める。建物外壁等は、法定点検の結果に基づき、支障のある箇所を計画的に補修・修繕を行い、外壁タイル等の剥離がないよう安全性の維持に努める。

## (3) DX推進投資計画

デジタルトランスフォーメーション(Digital Transformation、以下「DX」という。)は経済産業省により策定された「DX推進ガイドライン」(2018)を契機とし、デジタル技術を活用した事業や産業の構造的変革を表す言葉として、ビジネスの世界を中心に広がってきた。経済界のDXでは、デジタル技術を活用した事業や産業の構造的変革により、既存の産業や秩序に大きな改革と新たな価値をもたらされてきた。

教育分野でもDX化への関心が急速に高まり、コロナ禍で対面授業の休止を余儀なくされた学校においては、オンラインやオンデマンドを積極的に取り入れた教育改革への取り組みが本格化しつつある。教育研究の現場においては、教育研究以外の業務負担をできるだけ軽減し、本来の教育研究に集中することで、より付加価値の高い業務に注力する必要がある。また、データとデジタル技術を最大限に活用し、経営の高度化を図ることで、少子化の時代における生き残り戦略や他学校との差別化に取り組むことが喫緊の課題である。

そこで、学校法人武蔵野大学では、令和4年度に策定した学校法人武蔵野大学DX推進基本計画に基づき、法人全体が一丸となりDXを推進することで、4つの領域(大学・大学院、中学・高校、幼稚園・保育園・こども園、経営・業務)における既存の価値の向上やスマートインテリジェンスキャンパスの開設等の新たな価値創出を行う。併せて、DX推進施策を支える基盤整備を行う。

#### (4) 財政計画

第一次長期計画(MU VISION 2030)のもと、財政基本理念に基づき今後 10 年間における教育研究や DX 化推進への投資と、施設設備の拡充・維持等を両立できる安定的な経営基盤を構築することを目的とする。

18 歳人口の減少及び少子高齢化による受験者数の減少、教育機関の競争的環境への変遷による国・都の経常費補助金の減少など、これまで主な収入源としていた収入の減少が予測され、一層困難な状況となりつつある。その状況下で、本学が収支均衡・財政健全化を果たすためには、収入増加諸施策を検討するとともに、あらゆる支出項目について選択と集中を図り、学校毎に収支構造を見直す必要がある。

以上を踏まえ、2017 年度から本格的に導入した経営指標を参考にしつつ予算構築と執行を着実に推進する。これは、限られた収入を効果的かつ継続的に支出するために一定の指標を基に配分する仕組みである。具体的には、学生生徒等納付金、手数料、補助金、事業収入の基本収入から法人拠出額(主に減価償却額と第 2 号基本金組入額に充当)を除いた額を、学校毎に人的支出、教育研究経費支出、管理経費支出、第 1・3 号基本金組入額に割合を設けて配分をするものである。配分された合計額と支出(基本金組入額含む)の合計額との差額が、経営指標における収支差額となる。

なお、経営指標については、現状に即した指標値に見直しつつ、財政分岐点指標を順守することにより、財政状況や経営状況の健全性を検証しつつ、予算構築と執行を確実にを行い、安定的な経営基盤を構築していく。

大学においては、入学定員の確保と競争的資金の獲得を重視し、かつ中途退学者等の抑制施策などを実施し、在籍者の安定的な維持確保に向けた取り組みに努める。特に、国際化ビジョンに掲げる留学生数の確保を行い、学納金の収入増を図るとともに、施設設備の拡充に向けて、財政状況を見ながら第 2 号基本金組入計画変更も含めて適切に行い、特定資産の確保に努めるとともに、収支が均衡した安定的な経営基盤の構築を実現する。

武蔵野大学中学校・高等学校においては、諸改革推進の下で入学者が安定傾向にあるが、図書館建替えや駐輪場を新設するなど施設の拡充を行いつつ、今後も入学定員確保に努め、収支が均衡した安定的な経営基盤の構築を実現する。

千代田国際中学校・千代田高等学院においては、千代田キャンパス再生計画等の諸改革推進の下で入学定員の確保に努め、収支が均衡した安定的な経営基盤の構築を実現する。

幼稚園・保育園・こども園においては、園児の健やかな成長を目標とした地域密着型の教育・保育を推進し入園者の確保に努め、収支が均衡した安定的な経営基盤の構築を実現する。そのために、第 2 号基本金組入計画を変更した。

なお、中長期財政計画における機器備品等の取得等の考え方について、PC・AV 機器・ネットワーク機器等は原則リース契約とし、基本金組入額と減価償却額の差異を無くすものとする。

また、校舎建替え等の大規模な施設整備については、既に計画に含まれているが、各事業の計画が具体化した際には実施時期等を踏まえ、財政計画へ反映させていくものとする。

今後 10 年間の財政計画においては財政基本理念に基づき各学校の事業計画を核とした諸施策を策定し直ちに実行しながら、財政分岐点指標を順守することにより、5 年後・10 年後の強固な経営基盤の礎を築いていく。

## 2. 第一期中期計画 [2020～2024 年度]

### 基本項目

本法人では以下の領域及び項目を法人の中期計画の基本とする。

領域	基本項目
① 教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学部及び研究科設置（教育組織）</li> <li>・ 教育の改革及び充実（教育課程）</li> <li>・ 学生支援</li> <li>・ 就職（出口保証）</li> <li>・ 国際化</li> <li>・ 入試戦略</li> <li>・ 内部質保証</li> <li>・ 教員組織</li> </ul>
② 研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重点研究</li> <li>・ 環境整備</li> <li>・ 資金配分・確保</li> <li>・ 発信力強化</li> <li>・ 研究支援</li> <li>・ 研究所</li> </ul>
③ 社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域社会連携</li> <li>・ 産官学連携</li> <li>・ 社会貢献活動</li> <li>・ 環境問題</li> <li>・ 生涯学習</li> <li>・ 社会人教育</li> <li>・ 卒業生支援・連携</li> </ul>
④ 運営体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営体制（コンプライアンス含む）</li> <li>・ 事務体制</li> <li>・ 人事（ハラスメント対策含む）</li> <li>・ 認証評価（自己点検評価）</li> <li>・ 広報</li> <li>・ 危機管理・安全管理</li> </ul>
⑤ 財政施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財政基本計画</li> <li>・ 施設設備基本計画</li> </ul>

### 【中期計画】

大学・大学院は、ブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を実現するため、「武蔵野大学 2050 Vision 5つのチャレンジ」を長期計画の軸とし、「世界の幸せをカタチにする」人材となる「Happiness Creator」の育成と輩出に取り組む。

「武蔵野大学 2050 Vision 5つのチャレンジ」は教育改革推進会議で2016年10月から議論を進め、2019年4月に発表された。その後、実現のため検討小員会を設け、検討を重ねてきた。

2020-2024年の中期事業計画では、「世界の幸せをカタチにする」切り口をSDGs17目標に置き、5つのチャレンジを推進することにより、自己の専攻に加え、IT・AIテクノロジーを活用するスキルを持ち、データサイエンス的思考で自ら考え主体的に行動する社会の実務者たる武蔵野大学生・研究者を社会に輩出することを目指す。

#### ① チャレンジ1 自己と世界を問う

自己の専攻・関心を基に自ら考えた課題を、国内外の他者の専攻・視点を巻き込みながら、主体的に考え取り組むマインドを全学的に醸成する。全学部全学科・研究科で、学生とともに自己の専攻の様々な視点から、SDGs17目標に係る課題を自ら設定し、学外他者の専門・思考と接しつつ主体的に取り組み、2024年度に「武蔵野大学 SDGs 白書」の発表を目指す。既に各学部学科・研究科では2019-2020年の2年間の取組計画が進行しており、2020年度はその成果を検証し、2024年までの掘り下げた計画に発展させる。同時に、SDGs科目、多様なフィールドスタディプログラム、仏教に関する新たな科目等を通じ、Happiness Creatorに向けての基礎づくりと、課題に対し自ら考え主体的に取り組む志を固める。

#### ② チャレンジ2 未来の世界を創る Creative な実践者の輩出

##### ■教育力と質の向上

Creative な実践者に必要な思考・スキルの修得のため、学修者本位のカリキュラムを構築するとともに、専攻のメジャー科目に加えサブメジャーとしてデータサイエンス科目等を設定し、専攻分野に広角的な視点・思考でアプローチするスキルを育成する。また、武蔵野大学の教育手法を武蔵野メソッドとして確立し、それに合わせた教員評価制度の導入、ST比率の見直しを通じ教育の現場力を向上する。

併せて、自己の専門分野と社会とのつながりを体感する現在の学外学修プログラムを発展させたプログラムを開発するとともに、学修成果をカタチにするライティングやプレゼンテーションのスキルを指導する支援センターを設置し、見える形で学生個々の成長を支援する力を強化する。

## ■社会への人材輩出

人材の輩出先として、現在の優良企業に加え、将来の優良企業先を発掘する。一般企業への就職に加え、公務員や各種資格取得への支援を強化し、幅広い分野に人材を輩出する。

令和3年度に開設するアントレプレナーシップ学部では起業を目指し、実務家教員を含めた実践的な指導により、武蔵野大学発の Happiness Creator の先陣とする。

## ■研究力の強化

研究分野では、大学院研究科の研究指導体制と論文審査基準等を見直すとともに、社会の要請に応え、高度化する専門知に対応する大学院研究科を設置する。研究者に対しては、企業とのパイプを拡充するマッチングイベントの開催、学内手続きの簡素化等により研究活動を支援する。

また、研究成果の発表を促し、外部研究資金の獲得、受託研究、大学間・産官学間の共同研究等を増強する。

## ③ チャレンジ3 AI世界を先導するMUSIC

### (Musashino University Smart Intelligence Center)

この中期事業計画では、Happiness Creator の重要な要件を Smart Intelligence に置き、全学部学科・研究科で共通して学修する。

進化著しい教育テクノロジーを駆使し、先端的なスマートラーニング環境を全学的に提供することで、データ・情報・メディア・人工知能に関するリテラシー、ロジカル思考・デザイン思考・プログラミング思考などの実践知、加えて、各々の学部・学科の専門的な知識と能力も兼ね備えた Smart Intelligent な実践者を育てていく。

情報教育・学習環境の整備として、全教室及び学生 commons のネットワーク環境の高度化と電源環境の整備を 2021 年度までに実現し、BYOD の教育環境を確立する。整備された環境のなか、メディア教材の開発を進め本格的なメディア授業とラーニングマネジメントシステムの活用による学修管理を導入する。

MUSIC 発の次世代型情報・AI 教育をサブメジャー化し、全学部学科で展開する。文系学部生が専攻に加えサブメジャー科目を修得することにより、幅広い分野の企業に IT・AI テクノロジーを活用できる実務者として輩出するだけでなく、IT・AI 関連の成長分野への輩出につなげることにより、他大学文系学部との差別化を図る。

#### ④ チャレンジ4 Global & Universal

「世界を迎え入れ、世界に羽ばたく」グローバルな大学を目指す。自分とは異なる他者に会い、異文化や新たな発見に触れ、固定観念を自ら崩して創造性を生み出す。そして、お互いを認め合う文化を率先して構築し、学内のユニバーサル化を促進し、より学びやすく、より働きやすい環境を整備すると共に、留学等を通じて学外へ、海外へと活動のステージを拡げていく活動を支援する。

海外への留学及び外国人留学生の受け入れについては、高度で実務的な新しい留学スタイルを開発する。国内資格取得者の海外留学により現地の資格を取得する、又は外国人留学生による国内資格取得を通じ、国際的に Creative な実務に携わる人材を育成し支援することを展望する。

#### ⑤ チャレンジ5 MU-GEN (Musashino University GENERations) につながる Infinite Linking

仏教の縁起の世界観に基づき、無限につながり合っていく。在学生、教員、職員、卒業生が一体となって、ステークホルダーとの連携を推進し、それらを力にして、生きとし生けるもの、これから生まれしもの一切が幸せのカタチを享受しうるような世界を響創していく。

武蔵野の教育メソッドを活用して、学外学修受入先の自治体等や MUSIC による教育プログラムを通じた高大接続・連携を進める。特に、卒業生ネットワークを再構築し、卒業生間のつながりと交流を支援する。また、全国の全世代の卒業生に向けて、SIC の仕組みを活用して、資格取得講座、ビジネス実務講座、生涯学習講座等の学修機会を提供し、リカレント教育を通じて「つながり」を発展拡大する。

#### ⑥ 新たなチャレンジ ハイブリッド授業による可能性の追求

MUSIC の仕組みと教育プログラムを発展させ、学部研究科と通信教育部が融合した、地域性を問わない全く新しい形態の学部学科の新設、卒業生のステップアップのための資格取得や実務スキルの修得支援、個々の事情により修学途上で学業から離れた人々への学修機会の提供等のリカレント教育を本格的に展開し、教育分野におけるあらゆる可能性を追求する。これらは、第一期中期計画の中で事業計画化して展開する。

#### 【用語について】

次ページ以降の事業計画中の用語は以下の意味で使用している。

F D (Faculty Development)

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みのこと。

C P (Curriculum Policy)

教育課程編成方針のこと。

S D (Staff Development)

大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、職員に必要な知識及び技能を習得させ、その能力及び資質を向上させるための研修のこと。

D P (Diploma Policy)

学位授与方針のこと。

M U S I C (Musashino University Smart Intelligence Center)

本学における情報・メディア教育推進組織のこと。全ての学生が AI の基礎知識を学び、いつでもどこでも自分にあった学びを可能とし、” AI-Ready-University ” を実現するというビジョンのもと、先進的な情報教育を推進していくために 2019 年 1 月に設立。

L M S (Learning Management System)

e ラーニングの実施に必要な、学習教材の配信や成績などを統合して管理するシステムのこと。

B Y O D (Bring Your Own Device)

学生が自分の P C 等のデジタルデバイスを携帯することで、いつでもどこでも今いる場所を教室とすることを可能とすること。



[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画
チャレンジ1	自己と世界を問う	SDGsの17目標に向けての全学的な取組の推進	SDGsの17目標に向けての全学的な取組を通じた建学の精神の具現化	
			学科・研究科・研究所の17目標における教育研究課題の設定と解決に向けての取組	○
			国内外の研究機関との連携深化と国際的な交流活動の拡大	
		自己の生き方を問いつつHappiness Creatorとして歩む志、能力の確立	「世界は幸せか」という問いから始まる学修の仕組み構築	○
			Happiness Creatorを育成するための武蔵野メソッド（響学スパイラル）の開発	○
			全学部学科・研究科におけるFDの徹底を通じてのアクティブラーニング、反転授業、ICT活用等による授業改善	○
			生涯学び続ける学習基盤の確立	
入学前・初年次教育による武蔵野の学びへのスムーズな移行				
チャレンジ2	未来の世界を創るcreativeな実践者の輩出	学修者本位のカリキュラムの構築と教育力の向上	共通基礎課程必修単位数を低減し、学びの目的に応じた選択科目を配置	
			各学部学科、研究科の学修者本位のCPへの見直し	○
			メインメジャーとサブメジャーとの融合的カリキュラムに合わせた学内組織の改編	○
			教育研究の質を高めるための教員評価の導入とSD研修の充実	○
			ST比率の戦略的な学科別見直しによる改善	
	未来の世界を担うcreativeな知をカタチにできる人材の輩出	未来の世界を担うcreativeな知をカタチにできる人材の輩出	自己の関心事や専門分野と社会とのつながりを体感する学外学修の推進	○
			学修成果をカタチにする手法（ライティング、プレゼン等）を支援するセンターの設置（上位層引き上げ・補習体制整備）	○
			アントレプレナーシップ学部の設置と起業家の輩出	
			目的やニーズに応じ、個々人の環境や特性を活かした学び方を可能とする多様な学修プロセスの構築	○
			官民幅広い分野での人材輩出	
未来の世界を創るcreativeな実践者の輩出	社会の変化を包摂する専門的知見に基づく解を提示する研究力の向上	教職員一体となったキャリア形成・就職支援（アドバイザー教員の主体的指導の支援体制拡充）	○	
		社会の要請に応え、高度化する専門知に対応する大学院研究科の設置		
		大学院研究科の研究指導体制の再確認（DP・CP・論文審査等基準の見直し、FDの推進）	○	
		外部資金による研究費の獲得	○	
		研究活動の支援と研究成果発表の促進		
		研究費予算の戦略的配分		
		大学間・産官学間の研究活動強化	○	
チャレンジ3	AI世界を先導するMUSIC	情報教育・学習環境の整備	教室環境のスマート化（プロジェクタ・ディスプレイの計画的な最新化）	○
			教室定員に対する無線LANセッション数及び電源の確保	○
			LMSの確立とAIサービスの導入	○
			学生モモンズ等共有スペースの整備	○
	教育の情報・スマート化	教育の情報・スマート化	BYODを活かした響学スパイラル教育の全学推進	○
			LMS、AIサービス、動画コンテンツ等を活かした教育の実践	○
			AI-Ready-Universityを目指した情報・AI教育のブランド化	○
	AI-Ready-Universityを目指した情報・AI教育のブランド化	AI-Ready-Universityを目指した情報・AI教育のブランド化	MUSIC発次世代型情報・AI教育の全学展開とサブメジャー化	○

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	
チャレンジ4	Global & Universal	世界に羽ばたき、世界を迎え入れる学部学科でのグローバル人材育成	協定・認定留学等の留学制度等の推進（海外渡航型）	○	
			オンライン型海外研修プログラムの充実化とその支援		
			留学生支援に取り組み、その広報を通じて優秀で多様な留学生獲得	○	
		ユニバーサルなキャンパス空間と学生支援	国内授業における外国語科目の強化	第二外国語科目の充実	
				SDGs専門科目等外国語で修了できる科目・コースの設置	
			キャンパスをバリアフリーな空間として創造	○	
チャレンジ5	MU-GENIにつながるInfinite Linking	大学の枠を超えてつながる新設プラットフォーム（オンライン+リアル）を活用した各種連携 （中高大接続、地域連携、通信教育、大学間・産官学連携、卒業生との連携）	学生（中高大）、卒業生、大学、企業、地域が参画する大学の枠を超えたプラットフォーム（オンライン+リアル）の新設		
			本学の教育コンテンツを活用した中高大接続		
			本学進学者及びIR情報を用いた高大接続		
			MUSICによる教育プログラムを通じた高大接続	○	
			地域ニーズを把握し、生涯学習講座等を活用した地域連携		
			通信教育部での学修機会の拡大による卒業生を含めた学生確保	○	
			通信教育部の学修者本位のCPへの見直し（学部、大学院）	○	
		卒業生ニーズを把握し、通信教育部、生涯学習講座等を活用した卒業生支援			
		武蔵野サンガの醸成（卒業生・退職者・在学生・教職員・後援会の連携）	100周年記念事業を契機とした同窓会組織の活性化と、卒業後の継続的な情報接触を通じた関係性の強化	○	
		チャレンジ6	共に5つのチャレンジを実現する学生の安定的な確保	武蔵野大学のビジョンの社会的認知と共鳴する優秀な人材の確保	入学定員を満たす入学者の確保（学部）
大学院研究科の定員管理徹底（入学者の確保又は定員の削減）	○				
入学者に占める本学第一志望比率増					
実志願者数の確保 18歳人口減対応（2020年117万人、2024年106万人 1割減）					
入試施策（出口から入試の合格基準を考える）					
Society 5.0時代のニーズに即応した学部学科等の新設再編	建学の精神、アフターコロナの社会変化、ICTを用いた学び方の変革等を見通したニーズの把握				
社会的評価指標の向上	THE大学ランキング等の社会的指標向上策のモニタリング				
社会に輩出する学生数の減耗の極小化	社会環境の変化に対応できる学生支援体制の強化				

## 武蔵野大学中学校・高等学校

### 【中期計画】

- ・本校は、「チャレンジ」を合言葉に、生徒一人ひとりの将来を見据えた教育の実践を行うため、LAM (Liberal Arts Musashino)、アントレプレナーシッププログラム、MAP (Musashino Advanced Project)、外部チューター制度など民間企業と連携した教育プログラムを開発・実践している。  
また共学進学校としての進路指導力を強化するため、国内難関大学への受験指導や進学実績を有する民間企業との連携による「国内外の難関大学への進学実績」を高めるための取り組みを今後スタートさせる予定である。
- ・理数系教育の強化・充実を図るため、AI を活用した学習サポートシステムを取り入れ、生徒の個々の能力に応じて、上位学年の学びを提供する。特に興味・関心の高い生徒には、外部コンテストへの参加を推奨し、本校での学習成果を外部に発信する機会とする。
- ・中期計画に掲げた教育改革を一致団結して取り組むため、教科別の勉強会、学年横断型の勉強会、指導力強化の勉強会など教員個々のスキルアップが可能になるように、各種研修会や勉強会を実施する。

[武蔵野大学中学校・高等学校]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画
1	<p>附属校としての役割を果たしながらも、グローバル・サイエンス教育の充実をはかり、21世紀において先進的な教育・学校事例を社会に提供し続けるリーディングスクールとして変革し続けていく</p>	<p>真なるグローバル人材育成のためのシステムの構築</p>	コースの再編と具体的なカリキュラムの構築	
			海外トップ大学への進学ノウハウの蓄積	
			国公立・最難関私立への指導強化	
			英語四技能への対応と各種試験の研究	○
			各授業の品質と大学進学指導力の向上	
			短期・長期留学制度の充実と海外留学生の受け入れ促進	
			校内行事の整理・削減と一貫性の構築	
		<p>サイエンスを身につけるためのシステムの構築</p>	理数系教科の指導力の向上	○
			外部企業との連携	
			外部学力テスト結果の分析及び授業での検証	
			学級運営力・授業力向上に向けての各種研修会への参加	
			21世紀型学力のためのハード・ソフトの構築	
			最難関大学への指導ができる体制づくり	
			ICT教育を含む継続的な学習環境の整備	
2	<p>目的達成のために必要な教育コンテンツ・スキーム・人材の開発・育成を進め、確実なアウトカムを出し、実践の頒布を行う</p>	<p>教員が改革推進に対して一致団結して取り組む体制の確立</p>	人員配置の整理と機動力の向上	○
			クラスター型組織による複数の次世代リーダーの育成	
			学外広報の強化による志願者増	
			改革を推進し入学者の増加を達成し収入の増加と収支の均衡を図る	
3	<p>学祖高楠順次郎先生が目指された、「社会に貢献する人材の育成」という原点に立ち返る</p>	<p>「世界の幸福とは何なのか」を考え続けるために必要なシステムの設計を行う</p>	<p>社会に貢献する人材になるためのオリジナル教育の開発</p>	

## 千代田国際中学校・武蔵野大学附属千代田高等学院

### 【中期計画】

- ・武蔵野中高が実践している新しい授業形態や教育プログラムを参考に国内最難関大学・海外大学への指導体制を整える。
- ・千代田国際中学校では、自己と他者の幸せを希求する真のオーナーシップを持った生徒の育成をおこない、社会と接続する学校教育モデルを構築する。すなわち、中高一貫教育のシステムを構築し、それに必要なコンテンツや教員のスキル・マインドセットの育成を平行して行う。
- ・千代田高等学院では次の2つを柱としてカリキュラムを編成し進学校化を進める。「国際」においては、グローバル人材として必要なマインドセットとスキルを身につけ、併せて英語では、4技能を測定する試験に挑戦していく。「探究」においては、学びの領域を広げ深めるテーマ設定と学び合いにより想像力と教養力を醸成していく。
- ・千代田キャンパス全体としての中長期的視点から建替えを含めた施設設備計画を策定する。

[千代田国際中学校・武蔵野大学附属千代田高等学院]

区分	第一次 長期計画	第一期 中期計画	2020年度～2024年度 事業計画	重点 計画
1	前身である千代田女学園設立者の鳥地黙雷先生が目指された「国際教養人の育成」に立ち返り、国内外の難関大学への進学を保証していく	国内難関大学・海外大学への合格力を高める	コースの再編と具体的なカリキュラムの構築	○
			海外トップ大学への進学のノウハウの蓄積	
			国公立・最難関私立への指導強化	
			各授業の品質と大学進学指導力の向上	
		想像力と教養力の育成	チームで進路指導を行う体制づくり	
			入試制度の研究と個別最適化の模索	
			世界を見据えた教材の選定とテストの抜本的な見直し	○
			短期・長期留学制度の充実と海外留学生の受け入れ促進	
2	目的達成のために必要な教育コンテンツ・スキーム・人財の開発・育成を進め、確実なアウトカムを出し、実践の頒布を行う	教員が改革推進に対して一致団結して取り組む体制の確立	クラスター型組織による複数の次世代リーダーの育成	
			学外広報の強化による志願者増	
3	学祖高楠順次郎先生が目指された、「社会に貢献する人材の育成」という原点に立ち返る	「世界の幸福とは何なのか」を考え続けるために必要なシステムの設計を行う	社会に貢献する人材になるためのオリジナル教育の開発	
4	法人全体ベースでの組織マネジメントの構築	法人統合後の実効的な組織運営とガバナンス体制の強化	人員配置の整理と共通基盤に基づく柔軟な組織の構築	○
			事務室業務の整理（法人業務と設置校業務）と法人への移管	

## 武蔵野大学附属幼稚園・慈光保育園

### 【中期計画】

これまでの教育方針を再確認し、必要があれば大胆な教育方針の変更も選択肢に入れ検討していく。

園は地域コミュニティと密接な関係を有することから、大学施設の利用や大学教職員・学生との交流促進、また、講演会・研修会への参加特典など、大学附属園であることの利点を一層充実させる。また、園からの発信力を高めることも重要課題である。保護者とのコミュニケーションツールの更なる充実をはじめ、Websiteの一層の充実、地域での有効な広告宣伝方法の模索、等々に注力したい。

一方、園がこれまで行ってきた日常保育や諸行事については、その意味をわかりやすく保護者等へ説明する努力も必要である。具体例を挙げれば、恵まれた自然環境を活かしての梅干し作りや銀杏焼き、田植えや藍染め衣装の製作、また、園内の動物たちとの日常的な触れ合いなどは、古くからの日本のくらしの一部でありつつ、SDG s等の観点から未来世代にとっても貴重な体験でもある。このようなメッセージを上手に発信することで本園の伝統の再評価につなげたい。また、「誰一人取り残さない」というSDG sの趣旨を尊重し、併せて発達障害等障害のある園児を保育する体制づくりも検討する。

施設設備の面では、園児が安心安全で楽しく過ごせるような教育環境を継続的に整備していく。

[武蔵野大学附属幼稚園・慈光保育園]

区分	第一次 長期計画	第一期 中期計画	2020年度～2024年度 事業計画	重点 計画
1	園児が健やかに成長できる教育環境を整備する	目標を具現化した競争力のある教育を企画・実施して、園児を成長させる	園児と保護者の満足度が高まる教育の質の向上を目指す	
			園児が健やかに成長できる教育環境の整備	○
			地域子育て支援への貢献	○
2	企業内保育所の円滑な運営	きめ細かい保育を企画・実施して、園児を成長させる	園児と保護者の満足度が高まる保育の質の向上を目指す	
			園児が健やかに成長できる保育環境の整備	○
			地域子育て支援への貢献	
3	入園者の確保	保護者も満足できる教育の実施	入園応募者の増加	○



## 武蔵野大学附属有明こども園

### 【中期計画】

武蔵野大学附属有明こども園のある有明地区は、新しい世代に向けた新たな住環境として大規模な開発が進められ、今後の発展が大いに期待されるエリアである。また、近隣には武蔵野大学有明キャンパスがあることから、本園は、地域とともに発展し、武蔵野大学と連携して成長する。

第一期中期計画では、開設から滞りなく、速やかに巡航速度に乗り、地域で確固たる基盤を固めることを主たる目標とする。そのためには、設置趣旨に基づき、本園とともにこの地域に移り居を構える保護者の世代の幼児教育に関するニーズに加え、保護者の育児に関する相談や支援のニーズを的確に捉えた教育・育児・支援スタイルを確立する。併せて、武蔵野大学との共同研究等を通じ教員力の向上を図る。

また、江東区からの斡旋による障害を持つ園児の受入を想定し、受入体制の整備を進めるが、将来的には、江東区の斡旋以外に地域に居住する障害のある園児の受入れも可能な体制づくりを検討する。

[武蔵野大学附属有明こども園]

区分	第一次 長期計画	第一期 中期計画	2020年度～2024年度 事業計画	重点 計画
1	大学の様々な学部と連携し園独自のカリキュラムを構築することによる円滑で安定した運営	園児と保護者の満足度が高まる教育・保育の質の向上を目指しつつ、円滑で安定した運営を行う  園児が自発的に遊び込み、生きる力を身につけられるよう、わくわくプログラムを実施するなど、教育・保育環境を充実する	園内外の研修や教育学部幼児教育学科との共同研究等を通して、教職員の指導力の向上を目指す  発達障害児等の障害者受入体制の整備 ・江東区からの斡旋児1名に付き担任とは別に非常勤1名配置 ・斡旋以外の園児をどの程度受け入れるか検討と体制づくり  様々な学部と連携し、園児が多方面に亘る事象に興味を持ち、視野を広げていける環境の整備	○
2	子育てを中心に様々な情報を発信し地域に根付いた園にする	地域に開かれた施設として、地域子育て支援プログラムを通し、こどもの健全育成及び子育て世代の家庭の支援を図る	地域の子育ての拠点となるよう子育てに関する講習会や絵本の読み聞かせ会等の充実	○

## 法人

### 【中期計画】

- ・武蔵野大学の建学の精神は、仏教の根本精神である四弘誓願を基礎とする人格教育であり、人格向上の実現によって積尊の理想を具現化することを教育目標としている。学生や教職員への建学の精神の浸透及び更なる学内外への普及を進めていく。
- ・法人理事会と大学をはじめとする各設置校との信頼関係に基づき、課題の共有、連携を図り、不断の改革を進める。意思決定にあたっては、理事の役割の明確化とともに迅速かつ高い透明性を保ち、ニーズが多種多様化し急速に変化を遂げている社会経済状況に即応すべく、適正な法人運営に取り組んでいく。また、事務局運営の基盤となる諸事項について審議するための部長会議を設置し、併せて将来の役員等を輩出するための人材育成に取り組む。
- ・今日の激しい社会環境の変化を背景に、大学には自主性を発揮して持続的かつ健全な経営をおこなうことが厳しく求められるようになった。長期的ビジョンに基づいた自主的かつ機動的な運営を図るために、事務機構の機能を整備して、文教政策や他大学動向など総合的な分析評価をおこない、意思決定を支援する機能を強化する。
- ・教育に対する社会からの要請は、高度化・多様化し急速な変化を遂げている中、本法人教職員には教育、研究、社会貢献などに関する教育の立案や実行、組織の運営や業務遂行を主体的に担う法人組織として総合力を発揮する役割が課されている。多様な人材の採用とともに、ダイバーシティを視座に置いた専門人材育成に積極的に取り組むことにより、組織の活性化と職場環境の改善を推進していく。
- ・あらゆるハラスメント被害をなくすことはもとより、ブランドビジョンの実現への取り組みを進めることにより、自他を分離する境を越え、他者の痛みを自分ごととして捉えることができるようハラスメント対策に係る研修の促進及び行動規範を確立する。法人におけるコンプライアンスを徹底し、信頼性の高い、健全で適正な運営を行うためにも、これまで以上に一人ひとりが高潔な価値観、倫理観を保持し、誠実かつ公正に諸活動を展開していく。
- ・教育に携わる法人として様々な情報を社会に公開し、教育研究に共感を受け、社会から支持されるために、広報の目的・対象を明確にし、法人経営との一体化を図りつつ、各設置校における均質化を推進し、あらゆる手法を活用しての広報活動を展開していく。法人における理解促進はもとより、各設置校を含めた全学的な情報収集・発信体制の構築やマスメディアとの日常的な関係強化等、武蔵野ブランドを構築すべく広報活動の具現化に取り組んでいく。

- ・創立 100 周年は本法人の園児・生徒・学生及び教職員が建学の精神やビジョンを共有し、結束力を強める機会である。加えて、卒業生、地域や企業等のステークホルダーに対し改めて本学の価値を示し、ブランド力を向上させなくてはならない。そのため、創立 100 周年記念事業を新たなイノベーションを生み出すための契機、学外に本学をアピールする好機としてとらえ、すべての園児・生徒・学生と教職員が創立 100 周年記念事業を「自分ごと化」し、主体的に関わっていける環境を同時に整えていく。
- ・校友会連合会（仮称）を創設し、各同窓会との連携強化を進めながら、卒業生や保護者に対して、本学の諸活動等に関する情報提供を積極的におこなうとともに、組織の拡充、諸活動の活性化の支援により、卒業生同士のネットワークの強靱化を図りつつ、卒業生（組織）から寄付金を含め在學生や本学に対する多様な支援・連携の輪が提供されることを目指していく。
- ・地域に開かれた学校法人として、様々な年代にわたる一般市民を対象にする地域交流・活性化や、地域と連携し課題解決に向けての取り組み等の様々な活動の展開を検討する。
- ・法人として不測の事態に備えた危機管理体制及びマニュアルを整備し、生じた危機に対して迅速に対応できるようにする。
- ・学校法人武蔵野大学DX推進基本計画に基づき、時代の要請に機動的に対応してDXを推進し、既存の価値の向上や新たな価値の創出を行う。ならびに、価値向上・価値創出の土壌・資源を作るためのデジタル化推進とそれを支えるデジタルインフラの整備に取り組む。法人全体のDX推進組織としてDX推進委員会を設置し、推進責任者としてCIOを置く。また、DX推進の専門部署を拡充するとともに、ITコンサルティング企業及び外部人材を積極活用し、各設置校、部局と連携し、プロジェクトベースで推進する。
- ・2017 年度から本格的に導入した経営指標を現状に即した指標値に見直しつつ、新たに導入した財政分岐点指標を順守することにより、予算構築と執行を確実にを行い、安定的な経営基盤を構築していく。  
大学においては、文部科学省による入学定員超過率の抑制のもとで、入学定員の確保と競争的資金の獲得を重視し、かつ中途退学者等の抑制施策などを実施し、在籍者の安定的な維持確保に向けた取り組みに努める。  
武蔵野大学中学校・高等学校においては、今後も入学定員確保に努め、収支が均衡した安定的な経営基盤の構築を実現する。

千代田国際中学校・千代田高等学院においては、千代田キャンパス再生計画等の諸改革推進の下で入学定員の確保に努め、収支が均衡した安定的な経営基盤の構築を実現する。

幼稚園・保育園・こども園においては、園児の健やかな成長を目標した地域密着型の教育・保育を推進し入園者の確保に努め、収支が均衡した安定的な経営基盤の構築を実現する。

【法人】

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画
1	仏教精神の再確認と共有	仏教精神の普及	「建学の精神」である仏教精神の学内外への普及に資する式典、行事、研修、講演会の充実	○
2	ガバナンスの構築と執行体制の強化	ガバナンス構築	学長・校長・園長を中心とした全学院の執行体制の強化 ガバナンス・コードの実質化	
3	組織の活性化と職場環境改善の推進	人事・組織の活性化	スピード感ある業務執行と確実に効率的な業務を実現する組織の確立	○
			働き方改革の推進による帰属意識の向上	○
			人事に関する計画（人材確保、人材育成、評価、適正配置、人件費見積り等）	○
			全学院のコンプライアンス及びハラスメント対策推進と行動規範に基づく倫理の徹底	○
4	ブランディング広報の強化	戦略的広報計画の策定・展開	全学的連携を視野に入れた広報の充実	○
5	創立100周年記念事業の成功と、次の100年への長期的パースペクティブ	100周年記念事業の企画推進とブランディング	100周年記念事業の推進	○
6	卒業生の組織化とロイヤリティ向上による大学価値の最大化	卒業生（同窓会）の組織化・機能化	校友会連合会（仮称）の創設	○
7	財政基盤の強化	経営指標に基づく財政の安定化	経営指標に基づくバランスのとれた予算の構築と執行	
			各種収入源の継続的な模索と確保	
			ステークホルダーに対する募財システムの構築と募財の推進	○
		【大学】経営指標に基づく財政の安定化	中長期事業計画を踏まえた経営指標（大学）の見直し	
			Best・Normal・Worst各収支シナリオに基づく弾力的な経営（収入減少時の支出抑制策）	
			借入金・リース等外部負債を抑えた設備投資	
		【武蔵野中高】経営指標に基づく財政の安定化	単年度収支の継続的な黒字化の達成	
			千代田高等学院を含む、中高財政基盤の健全化	
			東京都下の12歳・15歳人口（20%）減を想定した経営計画の見直し	
			任意団体（部活動・紫紅会、学年費、感謝献金）のネットバンキングサービスを活用した管理	
		【千代田中高】経営指標に基づく財政の安定化	高校校舎・中学校舎の建替えを想定した2号基本金の組入、募財計画	
			教学（総コマ数）と法人（経営）の整合性のある人件費管理の実現	
予算執行の適正化				
学校管理資金（感謝献金・部費等）のバンキングサービス利用				
持続性を担保するための堅実な学校会計の実行				
8	危機管理体制の確保	危機管理マニュアルに基づく危機管理体制の確保	感染症対策を含めた危機管理マニュアルの更新	○
			災害等発生時に迅速・柔軟に対応するための危機管理体制の見直し	○
		災害対応力の強化と危機管理能力の向上	安心安全を見据えた災害対応力の強化と危機管理能力の向上	○

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度 事業計画	重点計画		
9	教育研究基盤を強化する施設マネジメント	【大学】 増加する学生と進化する授業形態に向けた教育環境の整備・構築	新授業形態に合わせた規格を持つ適正な数の教室・学生共有空間の増設 MUSICヘルプデスクによるLMSの活用支援 MUSICの機能を拡充する適正なソフトウェア・機器類の確保			
		【大学】 経年劣化の進む施設設備の整備	武蔵野キャンパス施設設備機器の更新 施設設備機器に関する法令順守（建築基準法、ビル管法、消防法等） 武蔵野キャンパス4号館の改修			
		【武蔵野中高】 増加する生徒・教員と進化する授業形態に対応する教育環境の整備	進路指導室・自習室・ICT環境等の充実、特別教室等の改修、第二体育館・駐輪場・職員室・講師室の整備 等			
		【武蔵野中高】 セキュリティ対策	フェンス、セキュリティゲートの設置 等			
		【武蔵野中高】 経年劣化の進む施設設備の整備	高校校舎の大規模修繕、中高図書館の建替更新、音響設備更新、応接室及び音楽室の環境整備 等			
		【千代田中高】 老朽化建物の具体的な計画立案と実行	大講堂及び本館の建替、聞思堂の補修 等			
		【千代田中高】 教育環境の整備	売店・ラウンジの設置、ARC用ICT機器の充実、男子更衣室・部室の増設、机・椅子の整備、中学校教室の改修工事（フューチャールーム）等			
		【千代田中高】 インフラ整備など	学内無線LAN環境の改善、電源ケーブル・LAN配線の整理、技術室・生徒用ラウンジの設置、応接室の増設、校長室の改修 等			
		【千代田中高】 持続可能な教育を実現させる適正な維持管理の実施	施設ごとの改修・更新基準の策定			
		【幼稚園・保育園】 経年劣化が進む設備機器の更新整備	放送機器を更新、情報伝達の不安を解消	○		
		【幼稚園・保育園】 経年劣化が進む建物内部の改装	経年劣化している園舎・狭い職員室、応接室の増設、倉庫等の教育環境の整備	○		
		【こども園】 開設後必要となった設備の整備	プール用簡易温水シャワー設置及び園庭の改修・再整備			
		10	DX推進による本法人の現在価値の向上や新たな価値創出	【法人・設置校】データとデジタル技術を活用した経営及び運営の高度化による他法人との差別化	(1) データ等の客観的根拠に基づく経営及び運営判断、広報戦略及び募集戦略の立案 (2) 人材育成等の実施とシステムを活用した危機管理体制の整備や国際的交流の活性化	○
					(1) 交流・響創の場の提供	○
	(2) MUオープンコースウェアサービスの提供					
【大学】スマートインテリジェンスキャンパス開設	(3) 学修コンシェルジュサービスの提供 (4) ステークホルダー関係性醸成のシステム導入 (5) 新学生ポータル提供 (6) SIC施策の効果を高めるための活動					
【法人・設置校】各設置校及び法人のDX推進を支えるインフラ等整備	(1) 情報システム体制強化 (2) デジタル人材育成強化 (3) ネットワークインフラの強化 (4) データベース構築・整備 (5) 情報ガバナンス・セキュリティの強化 に向けたマスタープランの策定と推進			○		